



日本现代文学
精品注释丛书

欲

望

〔日本〕小池真理子 著 甘能清 注释 胡振平 审校

日文版

译林出版社



日本现代文学
精品注释丛书

欲望

日文版

〔日本〕小池真理子 著 甘能清 注释 胡振平 审校 译林出版社



江苏工业学院图书馆
藏书章

图书在版编目(CIP)数据

欲望 / (日) 小池真理子著; 甘能清注释. - 南京: 译林出版社, 2004. 1

(日本现代文学精品注释丛书)

书名原文: 欲望

ISBN 7-80657-575-8

I. 欲... II. ①小... ②甘... III. 长篇小说-日本-现代-日文 IV. I313.45

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2003) 第 044600 号

Copyright © 1997 by 小池真理子.

Japanese reprint rights in China arranged with SHINCHOSHA COMPANY through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

登记号 图字:10-2002-079号

书 名 欲望
作 者 [日本]小池真理子
注 释 甘能清
审 校 胡振平
责任编辑 张远帆
原文出版 新潮社, 2001
出版发行 译林出版社
电子信箱 yilin@yilin.com
网 址 <http://www.yilin.com>
地 址 南京湖南路 47 号(邮编 210009)
集团地址 江苏出版集团(南京中央路 165 号 210009)
集团网址 凤凰出版传媒网 <http://www.ppm.cn>
印 刷 南京通达彩印有限公司
开 本 850×1168 毫米 1/32
印 张 11.625
插 页 2
版 次 2004 年 1 月第 1 版 2004 年 1 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 7-80657-575-8/I·432
定 价 18.40 元

译林版图书若有印装错误可向承印厂调换

前 言

进入新世纪后,始于上世纪八十年代的『日语热』并没有降温,随着中日两国交流的增多,更多的国人投入到学习日语了解日本的行列中来。国内也引进和编写了相当数量的日语教科书、参考书和工具书,这都是我们这些从事日语教学多年的人乐于看到的。不过,同时我们也感到,相对于品种繁多的语法指导、单词手册之类,国内的日语阅读材料是明显比较薄弱的一环。有许多学生包括身边一些自学日语的朋友发出了『无书可读』的感慨。我们一直在思考怎样的日语读本才是最实用的,于是几经酝酿,精心编注,终于可以把眼前这套书奉献给广大读者。

这套由译林出版社出版的『日本现代文学精品注释丛书』,与以往的一些泛读教材和文学选读相比,最大的特点在于其完整性。过去我们编阅读材料,常常因为篇幅的限制和教学的需要,对一些长篇的作品只能节选,对一些难度大的作品要作部分改写。这样做,对于读者来说自然有难窥全貌之憾,于编者亦有割爱之痛。现在这套丛书全部是向日本购买版权,不作任何删改的原文出版,完完全全保留了作品的原貌。据我所知,如此成规模地引进日语原著在中国加入世界版权组织后还是首次,不能不说是日语学习者的一件幸事。

1 我们把这套书定名为『日本现代文学精品注释丛书』,是为了体现在编注中的几个基本出发点。首先,选取的都是『现代』作品,这些作品可以体现现代日语的面貌,提供给读者鲜活的语言。入选的作家也是以语言规范平实见长,是学习者容易模仿并值得模仿的对象。同时,所选作品均在日本现当代文

学史中有一定的地位,在国内也已经有了不小的知名度,是公认的非常好读的『文学精品』。题材虽不尽相同,但无论是散文游记、爱情小说还是悬疑小说,都能引人入胜。当然,这套书毕竟不同于一般的文学作品欣赏,主要是献给日语学习者的读物,它的实用性更多体现在『注释』上,每本书中对需要注意的生僻单词、语法现象和文化常识都做了较为精当的注释。对于日语程度较低的读者,可以扫除他们阅读中的障碍;对于有一定基础的读者,恐怕也有助于日语知识的巩固与提高。除了方便自学之外,这套书可以供老师们选取一些篇章作为泛读课的教材;考虑到入选作品多有中文译本,在教授翻译课程的时候也可作为参考书使用。

这套丛书是一个新的尝试,我们动了不少脑筋,花了不少力气,也一定会存在不少问题。希望大家能欢迎这个尝试,仔细阅读这些书,提出批评意见,帮助我们这套书出好,并且继续下去。

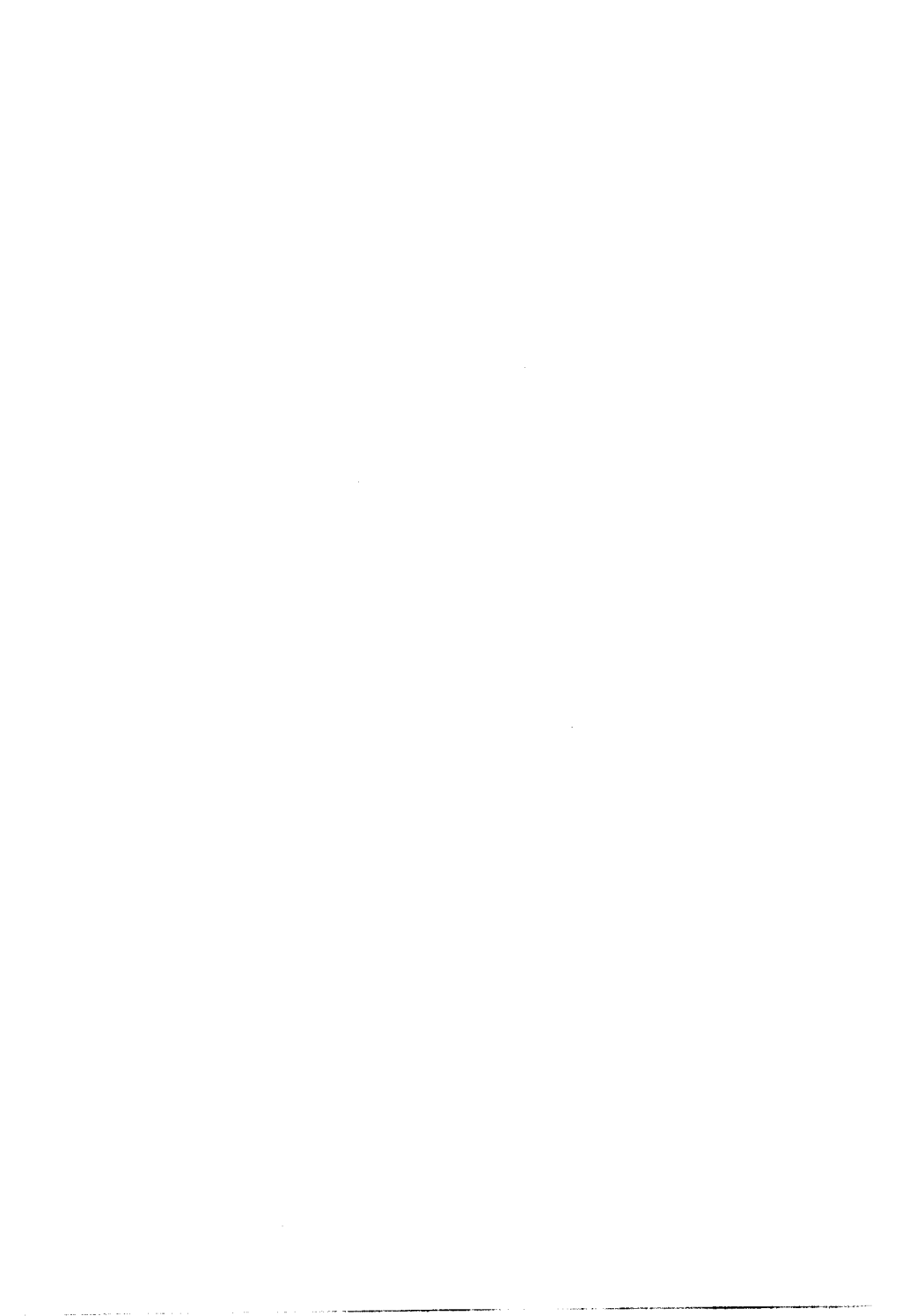
中国日语教学研究会会长

胡振平

二〇〇三年六月

欲

望



「眠らないでくれ。幕引きを見せるから」

——ヴィスコンティ監督

映畫『イノセント』より



第一章

1

私はいま、都心^①とは反対方向に向かう電車に乗っている。冷房の効いた車内に、乗客はまばらである。

梅雨が明けた^②と思ったら、連日三十五度近くまで気温が上がる猛暑が始まった。白茶けたような濁った色を見せているもの^③、今日も東京の空には雲ひとつない。日差しは強く、そのせいか、窓の外を流れる景色は不自然に鮮やかで、強すぎるライトを浴びた舞臺の書き割り^④のように見える。

これから会いに行こうとしている人物が、何故^⑤、これほど私をとらえてやまないのか、わからない。會つてどうする、と何度も自問してみた。何を話すのか。何を聞いてもらいたいのか。何を言ってもらいたいのか。

答えは出なかつた。話したいことは何もなかつた。聞かせたいことも、言ってもらいたいのこ

① 都心/指东京市中心。 ② ~と思ったら/刚一……就……。(惯用型, 接在动词过去式后, 表示刚刚完成前项, 紧接着进行或出现后项。) ③ ~ものの/虽然……但是……。(接续词, 接在连体形后, 表示强调。) ④ 書き割り/布景。 ⑤ ~てやまない/迫切……, ……不得了。(惯用型, 接在动词连用形+て之后, 表示强调。)

とも何ひとつなかった。私はただ、その人に會いたいと思っただけだった。

郊外の小さな駅に着き、幾人かの乗客が降りて行った。開いた扉の向こうに、線路に沿って
 行き亂れる夥しい数の向日葵の花が見えた。プラットホームを去って行く初老の婦人が、向日
 葵に向かつて勢いよく白いバラソルを開いた。

次の駅でも似たような光景が繰り返された。その次の駅でも。またさらにその次の駅でも。

だが、新たに乗ってくる乗客は少なくなっていた。客は降りて行くだけで、気がつくとも
 両には、私を含め数人しか残っていない。

……それでも電車は夏の光の中を走り続けている。

一ヶ月ほど前の木曜日のことである。

勤め先の學校が創立記念日で休みになり、雨の日だったが、午後になってから私は渋谷まで
 出かけた。世話になった醫師に、どうしても心ばかりの禮の品物を贈っておきたかったからで
 ある。

明け方になって、夫が急に胸が苦しいと言い出した時、その開業醫はいやな顔ひとつせず
 診てくれた。疲れからくる不整脈だろう、心配いらなと言われ、精神安定剤を処方された。
 早朝からたたき起こしてしまったことをあやまると、醫師は、どうせゴルフで早起きしなけり
 やいけなかったから、と言つて豪快に笑つた。

その醫師と親しくなつたのは三年ほど前。もとより身體があまり丈夫ではない夫が、具合が
 悪くなつたといつては通いつめているうちに、世間話に興じるようになった。同世代同士の氣
 安さか。以來、何かというと優先的に診てもらえるようになった。
 かなりのゴルフ好きで、僕が手にするものは二つしかない、聴診器かゴルフクラブだ、など

① プラットホーム (platform) / 站台, 月台。 ② バラソル (法 parasol) / (西式) 太阳傘。 ③ 気がつく / 注意到, 觉察到。(慣用句) ④ どうしても / 務必, 必定(副詞, 表示強調)。 ⑤ 不整脈/脉搏不整, 脉搏紊乱。 ⑥ 早起き / “なけりや” 是“なけりなやければ” 的口語縮略形式。 ⑦ 通いつめる / 经常来往。 ⑧ 世間話(せけんばなし) / 家常话, 杂谈。 ⑨ 同世代同士の氣安さか / 也许是同齡人不受拘束吧。(氣安い = 不拘束, 不客气。) ⑩ かなりのゴルフ好きで、僕が手にするものは二つしかない、聴診器かゴルフクラブだ、などと云つては笑わせてくれる。 / 他很喜欢打高尔夫球, 老说“我手上只有两样东西, 不是听诊器就是高尔夫球棒”, 令人发笑不已。

しみのひとつであった。

時には、長い間探していた本、古書店をまわる以外、手にいれる方法が見つからなくなってしまう本とふいにめぐり合うこともあった。どういう風向きなのか、出版社が古い本を複製版として出してくれることが多くなったせいである。本好きの快楽、と一言で言い切るのも願わぬのだが、そんな本と出会うとやはり、快楽を感じないではいられない。

その日も同じだった。ずいぶん前から欲しいと思っていて、いつのまにか見かけなくなってしまう厚手のイギリスの翻訳小説が、複製版として新刊コーナーの片隅に並んでいた。手にとったとたん、どうしても欲しくなった。上下巻合わせて七千六百円。学校図書館用の希望図書リストに入れておけば、何の問題もなく受け入れられるであろうことはわかっていた。

だが、図書館の本はあくまでも図書館の本であって私有物ではない。少々、値段が張るのを気にしつつも、私は本を手に残した。

あの時、レジカウンターにいた女店員がベテランで、きびきびした対応をしてくれていた。私は生涯、二度と、あの記憶をこれほど生々しく甦らせることはなかったかもしれない。たまに掘り返してみることがあっても、記憶は次第にぼんやりと輪郭を失って定かではなくなり、現実にあつたことなのか、夢に見たことにすぎないのか、區別がつかなくなっていくに違いないのだ。そして、やがては若かったころの幾千幾萬の苦い思い出と共に、小箱の中に閉じ込め、封印してしまうこともできたはずなのである。

だが、私の対応に當たったその女店員は、入店して間もないと思われる新米だった。いや、ひよつとすると、学生アルバイトだったのかも知れない。彼女は代金の計算を間違えたばかりではなく、ブックカバーをかけようとした時に不要な折り目をつけてしまい、やり直さねばならなくなった。

① -ないてはいられない/非……不可、……不……(是)不行(的)。(惯用型、前接动词否定型、表示动作主体的决心。) ② -たとたん/刚……的时候、就……。 (惯用型、接动词过去式后、表示前后两个行为几乎同时发生。) ③ -つつも/虽然……但是……, 尽管……却……。 (惯用型、接动词连用形后、接续助词“つつ”后接“も”、“も”起加强逆态接续的作用、表示在某种状态下、却做出与这种状态不相应的行为。) ④ カウンター (counter) /柜台、收钱处。 ⑤ レジ (register) / (レジスターの省略语) 收银台。 ⑥ -にすぎない/只不过(是)……。 (惯用型、接在体言、动句、形容连体形后、表示程度的局限范围。) ⑦ -に違いない/定……, 肯定……。 (接在体言、动词、形容连体形、形容词、副词干后、表示比较肯定的推测。) ⑧ 新米 (しんまい) /新手、生手。 ⑨ ひよつとすると……かもしれない/说不定……, 也许……, 也可能……。 (惯用型、表示虽然不确切、但也有很小的可能性。) ⑩ ブックカバー (book cover) /书的护封。 ⑪ -ねばならない/必须……, 应该……。 (惯用型、“ねば”相当于“なければ”。本惯用型是“なければならない”的一种变体。)

女店員は、顔を赤らめながら、私に向かつて何度も「すみません」と繰り返した。極度に緊張している様子だった。

正視するのは気の毒だった。私は彼女の失態に気づかなかつたふりをしながら、ぼんやりとレジカウンターに並べられているものを眺めていた。

いろいろなものが目に入った。聡、英會話教材の広告パンフレット、タレントの署名入りのエッセイ集、発売されたばかりの中高年向け月刊誌……。

寫眞展の割引入場券は、カウンターの片隅に置かれていた。プラスチックの、何の変哲もない円筒形の筆立てのようなものに、束になって押し込まれていただけだったと思う。

入れ物には「ご自由にお取りください」と書かれた紙が貼ってあった。紙を貼りつけてあるセロハンテープは半分剝がれ、剝がれた部分には埃とも手垢ともつかない汚れが付着していた。

何故という理由もなく、私は一枚、引き抜いてみた。(東京回顧寫眞展 過ぎ去りし夏)とあった。

寫眞家の名は小寺行秀。聞いたことも見たこともない、私の知らない名前だった。全国にチェーン店をもつ、その大型書店の協賛で、二週間にわたって開かれていたらしい。日付を見ると、その日が最終日だった。

「これ、いただいけませんよ」

カバールをかけた終えた本を受け取りながら、私は若い女店員に言った。彼女は「どうぞ」と言ったが、早くも次の客から數冊の本を手渡され、代金の計算を始めていて、上の空だった。

この入場券を持参すると、おとな四百円の入場料金が三百五十円になります……券にはそう書かれてあった。

五十円安くなるから、という理由で、名も知らぬ寫眞家の寫眞展を覗いて行く気になつたわ

① パンフレット (pamphlet) / 小册子。② タレント (talent) / (艺术、学术上的) 人物 (电视广播中常出现的) 演出者、广播员、节目主持人 (包括常出现的学者、文化人物等)。③ エッセイ (essay) / 散文 (包括杂文、随笔、小品文、评论文等)。④ プラスチック (plastic) / 塑料、塑胶; 塑料制品。⑤ セロハンテープ (cellophane tape) / 透明胶带。⑥ 過ぎ去りし夏 (うたげ) / 过去的宴会。⑦ “し” 为文语 “き” 的连体形, 表示过去, 相对现代日语的 “た”。⑧ “とある” / 写着……。⑨ “し” 据说是 “き” (惯用型, 接用言)。⑩ “とある” / 写着……。⑪ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑫ “とある” / 写着……。⑬ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑭ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑮ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑯ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑰ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑱ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑲ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。⑳ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉑ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉒ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉓ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉔ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉕ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉖ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉗ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉘ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉙ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉚ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉛ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉜ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉝ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉞ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㉟ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊱ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊲ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊳ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊴ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊵ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊶ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊷ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊸ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊹ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊺ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊻ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊼ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊽ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊾ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。㊿ “し” 相当于 “……と書いてある” 或 “……と言われる”。

けではない。そもそも、何故、割引入場券を手にとったのかも不明である。「東京回顧」という言葉に、四十も半ばを過ぎた私が郷愁を覚えたからか。それとも、「過ぎ去りし夏」という寫眞展のタイトルに気を惹かれたからか。

その両方だったような気もするし、どちらでもなかったような気もする。雨の日の休日、すべて用がすんだからといって、これから夕食用の惣菜などを買いそろえ、電車に乗り、降りてからまたバスに乗り、そんなふうにして當たり前のように家に帰るのが、突然いやになったからかもしれない。

寫眞展は、そのビルの最上階にあるギャラリーで開かれていた。私はエレベーターを使って六階まで上った。

買物客で賑わう他のフロアと異なり、六階は閑散としていて静かだった。エレベーターを降りるとホールをはさんで右側がギャラリー、左側はガラスで仕切られただけの、何もない空間になっている。貸し店舗らしく、ガラスのあちこちにテナント募集中の貼り紙が貼られ、掃除に手が回らないのか、どことなく埃がたつているように見えるのが怪しげだった。

ギャラリーの入口付近に人の気配はなかった。白いテーブルクロスがかけられた機の上の一つと、機の脇の床の上に二つ、それぞれ、けばけばしい色の花で埋め盡くされた籠が置かれていたが、花の大半は生気を失い、萎れかけていた。

機から離れた衝立の陰で、中年の男がひとり、まるで人目を避けるように背を丸めて椅子に座り、厚手の本を読みふけているのが目に入った。くたびれた感じのする紺色のサマージャケットを着て、ジーンズをはいている。場違いと思われるほど気むすかしそうな視線が、本のページの上を泳ぎまわっていて、どこか近づきたいような印象があった。

男が私を見つけてのっそりと立ち上がったので、私は却く會釈をした。割引券と一緒に四百

① タイトル (title) / 标题。② ~からといって / 虽说……可是……; 尽管……也……。 (慣用型, 接在用言终止形后, 表示提出借口或让步条件, 常与否定形式呼应。) ③ ギャラリー (gallery) / 美术馆, 美术展览室, 画廊。④ ~となく / 不知……。 (慣用型, 前接疑問词, 表示“含糊不清”的状态; 前接不定数词, 表示数量多、程度高等。) ⑤ テーブルクロス (table cloth) / 台布, 桌布。⑥ サマージャケット (summer jacket) / 夏天穿的夹克衫。⑦ 場違いと思われるほど気難しそうな視線が、本のページの上を泳ぎ回っていて、どこか近づきたいような印象があった。 / (他那) 让人觉得不适合场面的挑剔的视线在书页上逡巡, 给人一种有点难以接近的印象。⑧ 會釈 (えしやく) / 点头, 行礼, 打招呼。

円を差し出すと、男は白いクロスのかかった機の下を覗き込み、四角い鞆子の缶を取り出して、中から五十円の釣銭を返してきた。

どうも、と私が言うと、「ごゆっくり」と男は早口で言った。そして、にこりともせず^①に椅子に戻り、再び本に目を落とし始めた。客は私以外、誰もいなかった。

黒いスチール製のフレームに収められた寫眞は、撮影年度順に展示されてあった。すべてモノクロ寫眞で、タイトル通り『過ぎ去りし宴』だけで構成されている寫眞展のようだった。誰かの結婚披露宴、新宿駅西口での反戦フォーク集會、誰かの通夜、忘年會とおぼしき大衆酒場でのどんちゃん騒ぎ、全共闘系學生による街頭デモと集會、政治家が開いたホテルでのパーティー風景、川べりでの花見の賑わい、グループサウンズの公演で熱狂している少女たち、渋谷で初めて行われたウーマンリブの大會……

作品を解説するパンフレットのようなものはどこにも置かれていなかった。展示されている寫眞の脇に、わずかに數行の説明文のようなものが書かれた白いプレート^②が貼ってあるだけである。しかもそれは、撮影日時や場所を細かく特定しているわけではなく、例えば、「一九六九年秋。新宿駅西口にて。反戦フォーク集會」といった具合の、きわめて簡素なものではなかった。

全部で六、七十点ほどだったろうか。興味をそそられる寫眞ばかりだったとは言いがたい。展示されている寫眞には、素人^③くさいスナップ寫眞も數多く混ざっていた。また、何故、この寫眞にわざわざ『回顧』^④という意味をもたせる必要があったのだろう、と思われるものもあった。

さしたる説明文がなかったせいか。時代を物語る風景が、私のような年代の者にとってはありふれたものばかりだったせいか。過ぎ去った時代への感傷めいたものはさほど味わうことが

① ~ずに/不……, 没……。 (惯用型, 接在动词未然形后。“ず”是文语否定助动词“ぬ”的连用形, 后接“に”表示否定的状态, “に”有时候可以省略。) ② モノクロ (monochrome) / (モノクローム的缩略形式) 黑白照片。③ おぼしき/可能是, 估计是, 大概是。(用“~とおぼしい”的形式。) ④ 全共闘系/20世纪60年代末日本兴起的新左翼组织。它不同于社会党、共产党等传统意义上的左翼, 其主要特征之一就是发起学生和群众运动。⑤ グループサウンズ (group sounds) / (由四到五人组成的) 摇滚小乐队。⑥ ウーマンリブ (Woman's Lib/Woman's Liberation) / 妇女解放运动。⑦ プレート (plate) / 板, 金属板, 招牌。⑧ くさい / (造语) 有……味道、气味、样子、派头。⑨ めく / 接尾词, 其词尾按照五段动词进行变化, 表示具有某种倾向或具有某种意味, 相当于汉语的“好像……的样子”。